I. 報告書の編集方針

本報告書の作成に当たって以下の 3 点を編集方針とした。

- **数字についての留意点を可能な限り明示する**

　世間には様々な数字があふれているが、その信頼性には幅があるのが現状である。いうまでもなく完璧な数字などは存在せず、全ての数字はその算出の方法に応じて解釈するべきである。

　特に本報告書は、様々なデータ源から引用あるいは集計されたものである。そのため掲載された指標の値も信頼度は一様ではない。データ源や引用元の研究・調査によっては偏ったサンプルを対象とし、わが国を代表するとは言えないものも含まれている。また、その収集の過程（質問の仕方など）で、データの傾向が影響されるものもある。本報告書には大量の数字を掲載しているが、可能な限り留意点を明示するようにした。それぞれの指標については、その個別の詳細解説をご覧いただきたい。

- **数字を解釈するための元材料を可能な限り提供する**

　前項の通り、明示的に留意点が記述できる場合にはそれを記載したが、報告書作成チームの気がつかなかった留意点が存在するかもしれない。また、独自に解釈を考えたい読者にも役立つべきであると考えた。そこで、本報告書では、全ての指標についてデータ源を明らかにし、属性、対象者（母集団）、回答率、データ収集方法などを可能な限り記載して、データ源の適切性を読者が評価しつつ値を解釈できるようにした。また、引用元を明示することで、読者がさらに、データの基本的な特性を知りたいと考えたときの手がかりを提供するようにした。

- **95% 信頼区間を表示する**

　サンプルを用いて算出された数値は推定値である。通常はあまり意識されることはないが、同じ調査を同じ方法で繰り返してもそのたびごとに、ある程度値が変化する。例えば、1000 人の集団から 100 人を無作為に抽出して平均年齢を計算すれば、抽出するたびに違う人が選ばれることになるので、調査ごとに平均年齢は異なる。このように推計値が実は一点に定まった値ではなく、幅を持った値であることを示すために、統計的には 95% 信頼区間が表される。例えばサンプルから平均年齢が 68 歳と算出された場合で、その 95% 信頼区間は 66 歳から 70 歳、という具合になる。この 95% 信頼区間の統計学的な定義は「同じ調査・同じ算出法で計算を繰り返した場合に 95% の割合で母集団の値（真の値）が含まれる区間」という抽象的なものであるが、ここでは「推計過程で生じる値の幅」と考えていただきたい。本報告書の巻末資料では、患者体験調査において調査方法を反映した 95% 信頼区間を算出している。

　がん対策そのものの検討だけではなく、数字のことまで考えなければならないのかと、面倒な印象を与えるかもしれない。しかし、報告書の編集グループは、以前にも増して情報があふれる現代において情報を発信する者の責任として、上記 3 点の編集方針をとったことをご理解いただければ幸いである。